



2004年6月3日 第2004-29号

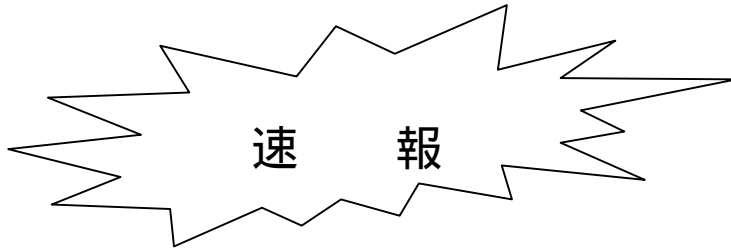
【発行】J A M

【発行責任者】大山勝也

【編集】社会政策局

03-3451-2586

E-MAIL : syakai@jam-union.or.jp



参院厚生労働委員会・年金関連法案強行採決！！

またしても強行採決

本日、参議院厚生労働委員会で、政府提出の年金関連法案が強行採決されました。

参議院厚生労働委員会は、これまで、地方公聴会を含めて6回の審議を行いました。本日は午前10時から始まり、午前中は与野党が、厚生労働大臣、年金局長に対して質疑を行いました。

午後は、小泉総理に対する質疑が行われました。民主党・山本議員は、総理に対し、今回改正の骨格である、「マクロ経済スライド」について質問をしました。しかし総理は「物価スライド」と「マクロ経済スライド」の違いを全く理解しておらず、山本議員は「理解もせず法案提出とはどういうことだ」と厳しく追及しました。これに対して小泉総理は、「なぜ総理大臣が用語の定義まで説明しなければならないのか、こんな答弁は専門家にさせるべきだ」と発言。このあきれた答弁に対して、委員会室は騒然となり、年金局長や随行の官僚等もあわて、審議は一時中断しました。山本議員は総理に対して「マクロ経済スライドとは、給付の段階的なカットで、国民年金を例にあげると名目額は月6.6万円が変わらないが、物価が上がっても6.6万円は変わらない、マクロ経済スライドがなければ改正案は無いのと同じ、こんなこともわからな

いでよく総理大臣をやっていられる」と反論しました。

さらに山本議員は、総理の国民年金未納問題にも触れました。「未納したことに對して、『納めなければならなかったのに、申しわけなかった』と現在認識しているのか」という質問に対して、総理は「あのときはまったく知らなかった、35年も前のことを今さらいわれても...国会議員になってからは納めているのだから」という答弁を繰り返すだけでした。

疑惑隠しの採決

続いて公明党による質疑があり、終了後、虚をついて緊急動議が提出されました。厚生労働委員会委員長はもみくちゃにされながらも、採決を強行。公明党の後、共産党・社民党・無所属の質疑が残っていましたが、それを無視しての採決でした。

また、小泉総理が民主党の質問に対しボロボロになったため、これ以上野党と質疑を続けると、都合が悪くなるため、官邸サイドからの指示により、強行採決を早めたと見られます。

現在、厚生労働委員会・野党理事は、参議院議長に対して採決の無効・撤回を申し入れています。